

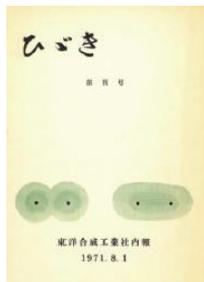
2024年3月期 通期決算説明会 (2023年4月～2024年3月)

2024年5月17日

代表取締役社長 木村 有仁

創業70周年に感謝

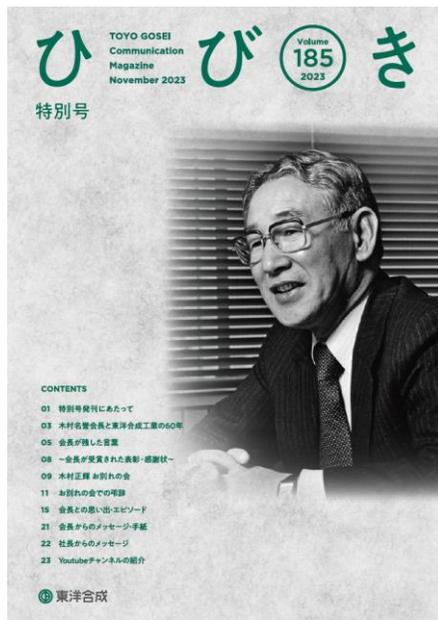
- 2024年9月27日、当社は70周年を迎えます。
- 現在まで、事業成長を支えて頂いたすべての関係者の方々に心より感謝申し上げます。



東洋合成

TOYO GOSEI 70th ANNIVERSARY

～70周年記念ロゴ～



1. 2024年3月期 通期 決算概要

2. 2025年3月期 通期 業績予想

3. 今後の見通し

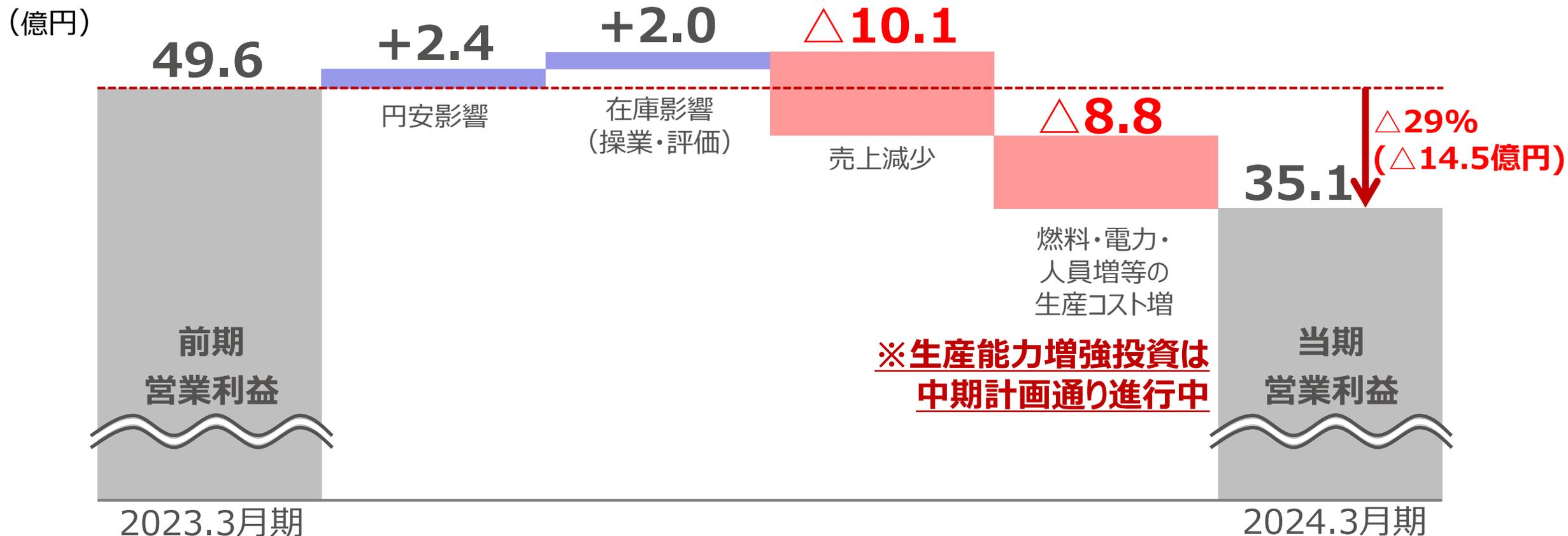
2024年3月期 業績概要

- 売上は、半導体需要の低迷とサプライチェーン上の在庫調整により、319.5億円(前年比△6%)。
- 営業利益は、需要低迷の中、需要状況に応じたコスト抑制に取り組み35.1億円(同△29%)。
- 業績予想比では、売上高+3%、営業利益+35%、純利益+50%と、**上方修正となる超過達成**。

	2023.3月期	2024.3月期	前期比		2024.3月期	業績予想比	
	(億円) 実績	実績	増減額	増減率	業績予想	増減額	増減率
売上高	341.5	319.5	△22.0	△6%	310.0	+9.5	+3%
営業利益	49.6	35.1	△14.5	△29%	26.0	+9.1	+35%
経常利益	51.2	33.9	△17.2	△34%	25.0	+8.9	+36%
純利益	38.2	23.9	△14.3	△37%	16.0	+7.9	+50%
1株当たり純利益	482円	301円					
期中平均為替レート	¥133/\$	¥144/\$					

営業利益 前期比 増減要因

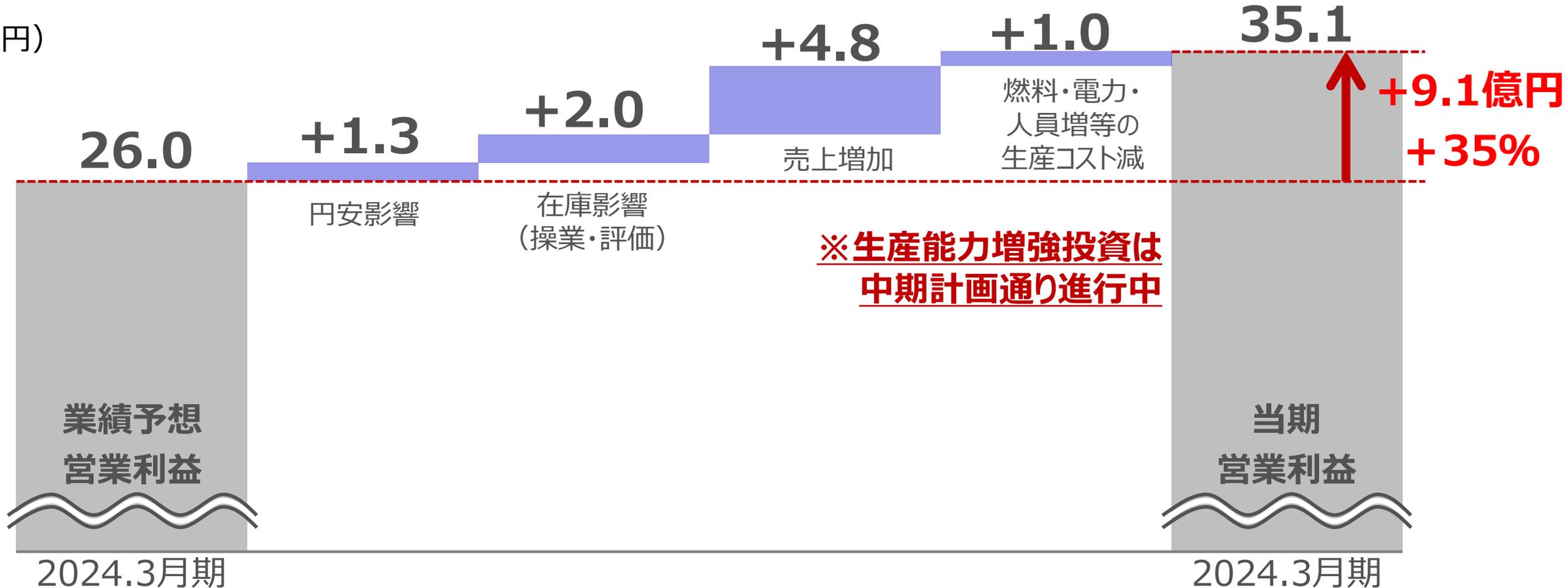
- 前年から売上減少22億円(主に上期)、燃料・電力料のコスト増、生産能力の増強投資も継続する中、通期で費用増加計画を見直し、期首計画25億円増→中間決算時10億円増→実績8.8億円増に抑制。
- さらに円安影響、在庫評価益、需要回復も寄与し、結果、期初の前年比営業利益26億円減少の計画を、14.5億円減少まで改善でき、営業利益は35.1億円。



営業利益 業績予想比 増減要因

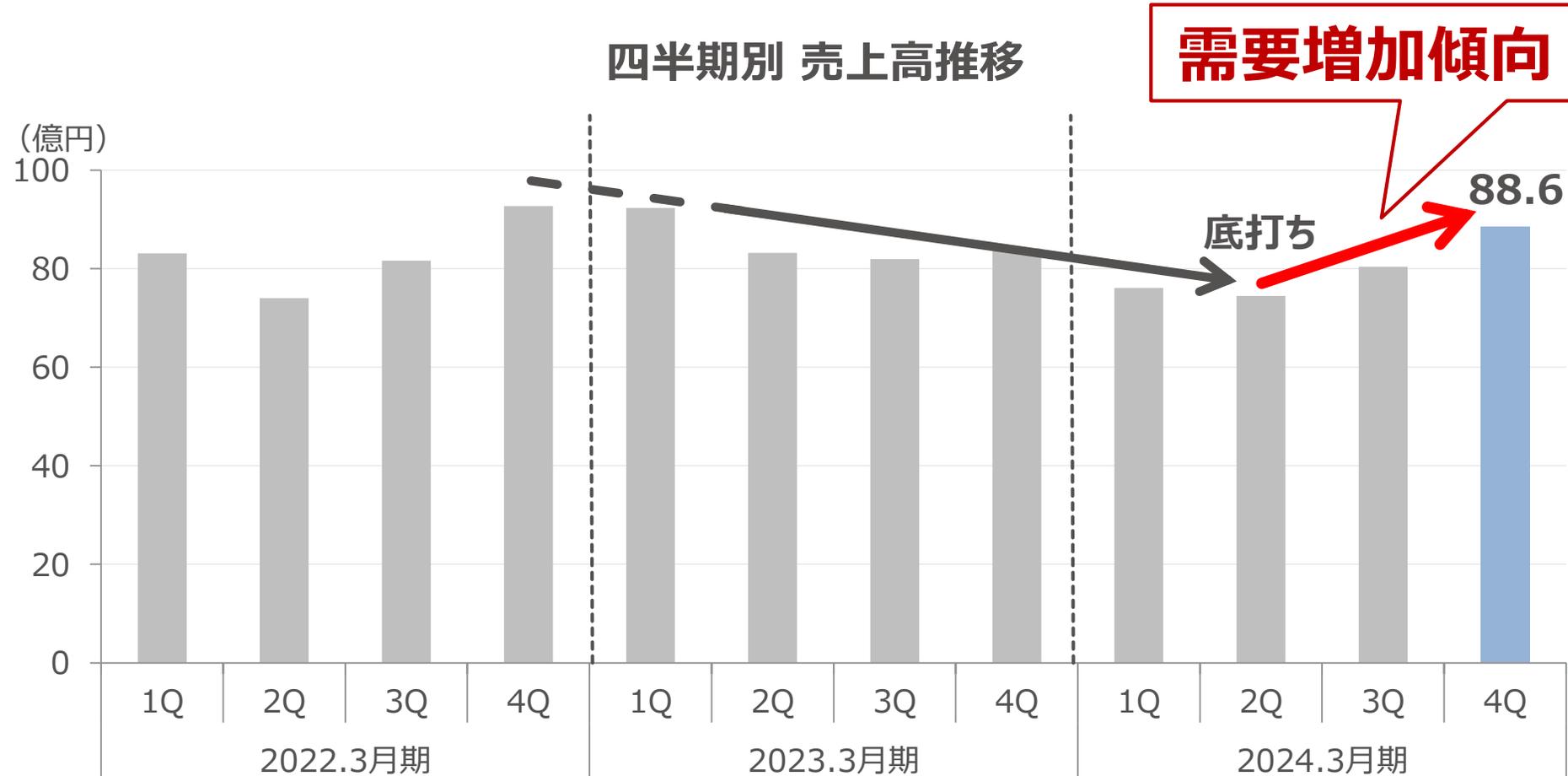
- 営業利益は、業績予想26億円から+9.1億円(+35%)超過し、35.1億円。
- 増益要因:下期からの需要回復+4.8億円、円安影響/在庫評価益+3.3億円、需要減退に応じたコスト抑制により+1億円。

(億円)



四半期別 売上トレンド

- 需要は2Qに底打ち、反転。下期以降、緩やかに回復傾向。



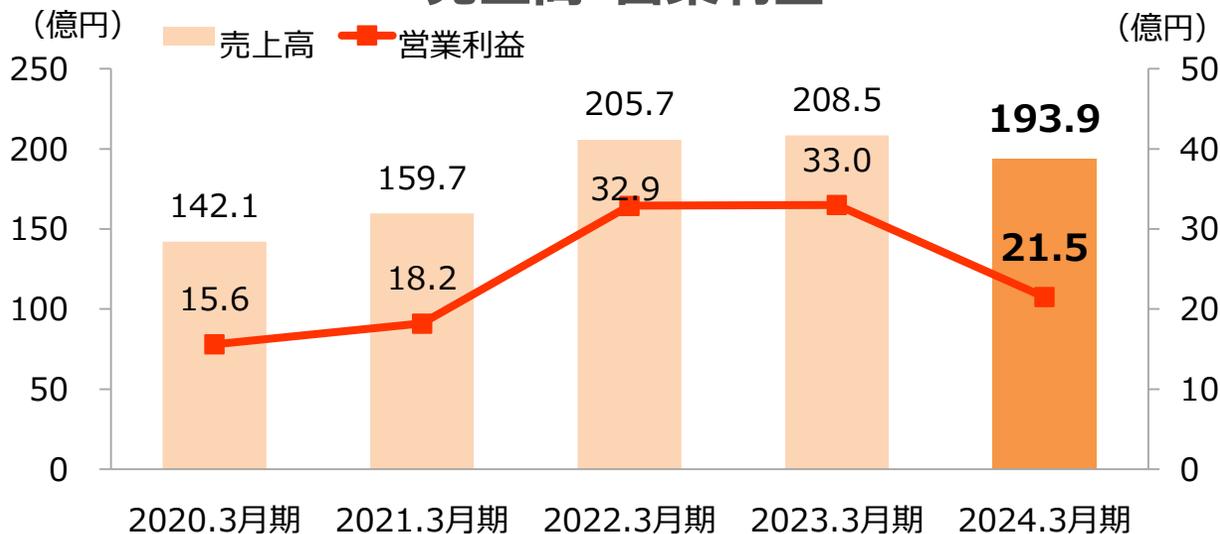
半期別 売上高・営業利益推移

- 下期以降、売上高・利益ともに回復。 **上期比で売上高+12%、営業利益+71%の増加。**
- 生産能力増強によるコストも吸収し、利益水準も維持。



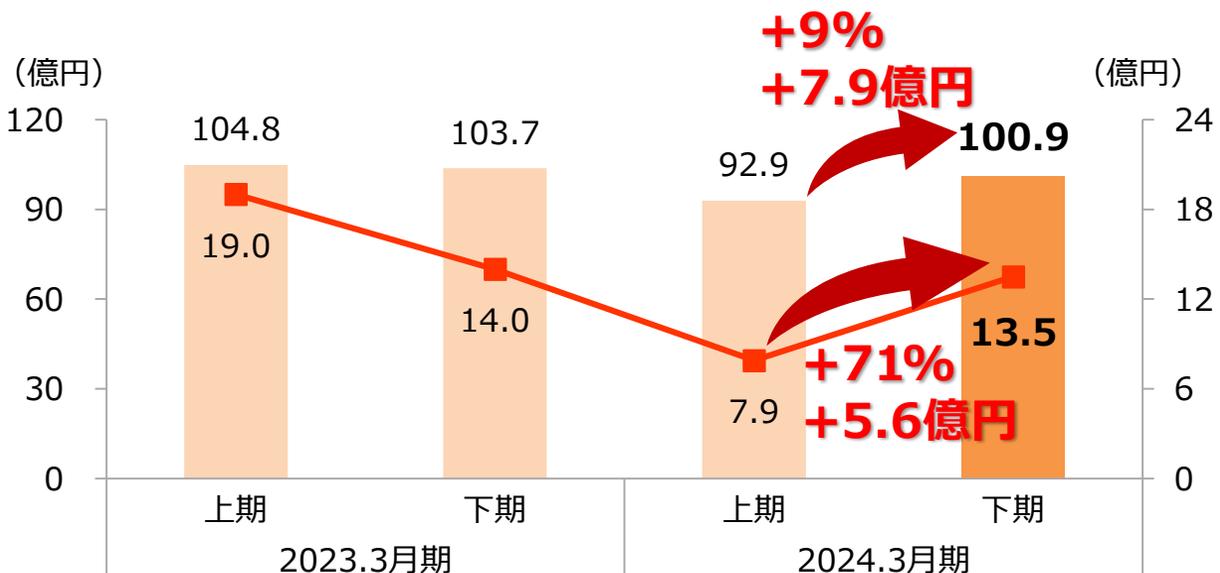
感光性材料セグメント

売上高・営業利益



売上高: 193.9億円 (前期比△7%)

- 上期は、電子デバイス市場の低迷により、販売減。
- ディ스플레이向け材料は、中国を中心とした大型パネル生産が軟調な中、一定レベルの需要を維持。
- 下期は、先端半導体向け材料を中心に回復。上期比+9%の増加。

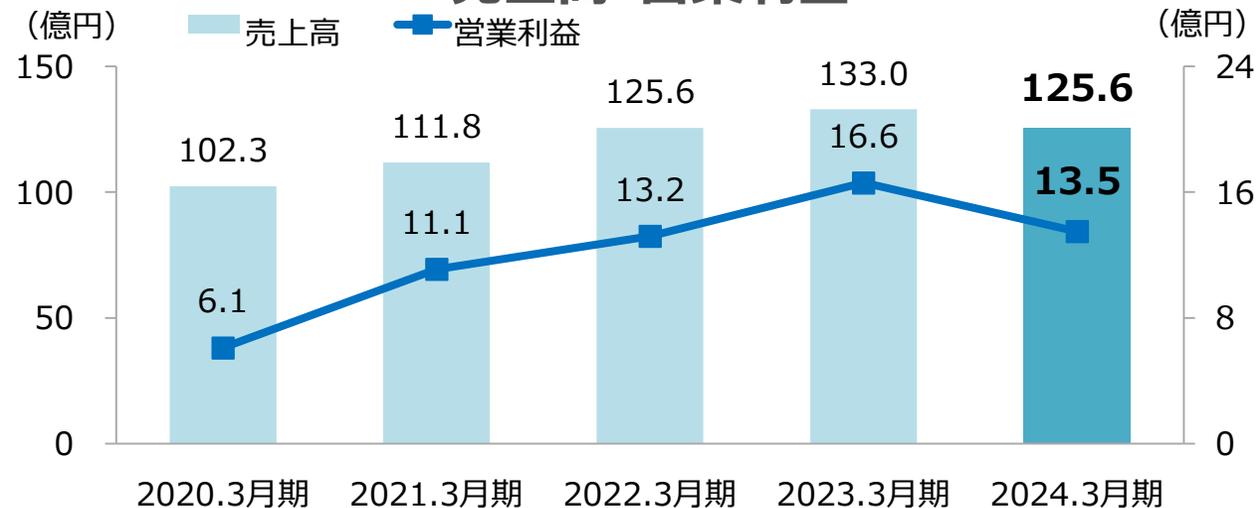


営業利益: 21.5億円 (前期比△35%)

- 上期は、販売減により減益。
- 下期は、需要回復により**上期比+71%の大幅増益**。
- 今後の需要拡大に向け、生産能力増強は継続。

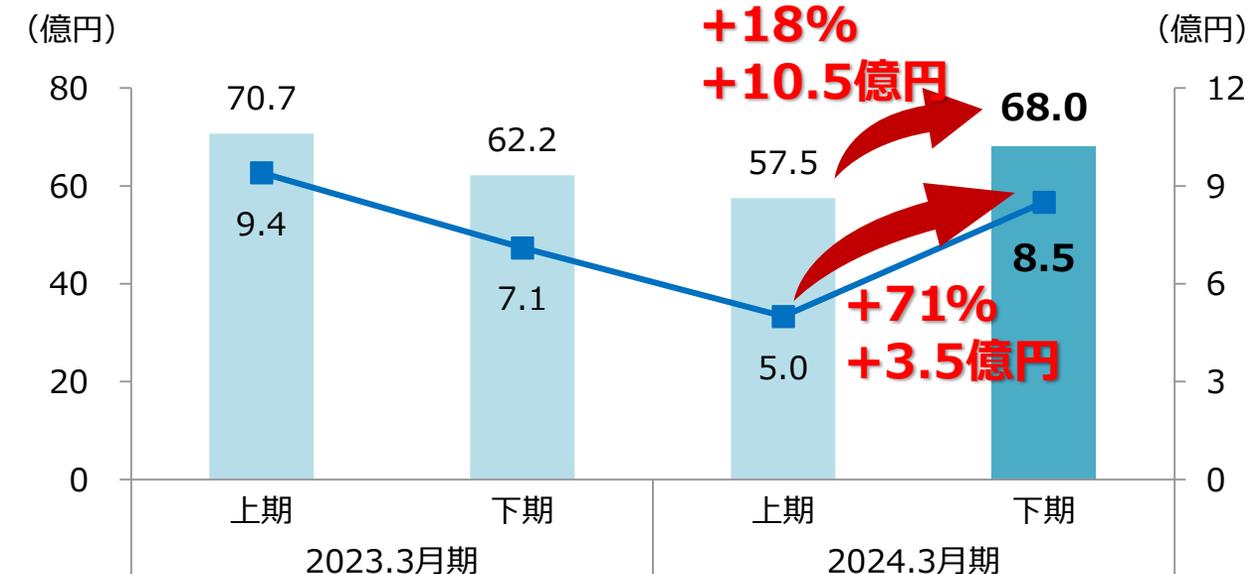
化成品セグメント

売上高・営業利益



売上高: 125.6億円 (前期比△6%)

- 高純度溶剤は上期減少。下期から回復継続。
- 香料材料は、上期から回復傾向継続で前期比増収。
- ロジスティックは、荷動き低迷ながらも、タンク契約率は高水準で推移。
- **下期は、上期比+18%の増収。**



営業利益: 13.5億円 (前期比△18%)

- 上期は電子材料の売上減少により、減益。
- 下期は、需要回復に伴い、**上期比+71%の大幅増益。**

2024年3月期 損益計算書

- 売上高は319.5億円(前期比△6%)。
- 売上総利益は、上期の売上減少と操業低下の原価上昇により、14.3億円減少の76.0億円。

(億円)	2023.3月期	2024.3月期	増減額	増減率
売上高	341.5	319.5	△ 22.0	△6%
売上原価	251.2	243.5	△ 7.6	△3%
売上総利益	90.3	76.0	△ 14.3	△16%
販売管理費	40.6	40.8	+0.2	+1%
営業利益	49.6	35.1	△ 14.5	△29%
営業外収益	3.0	2.0	△ 0.9	△32%
営業外費用	1.5	3.2	+1.7	+115%
経常利益	51.2	33.9	△ 17.2	△34%
特別損益	△ 0.6	△ 1.2	△ 0.5	
税引前当期純利益	50.5	32.7	△ 17.8	△35%
法人税等合計	12.2	8.7	△ 3.5	△29%
当期純利益	38.2	23.9	△ 14.3	△37%

← 粗利率26.4→23.8%
2.6ptダウン

← 一過性の廃棄など

2024年3月期 キャッシュフロー計算書

- 営業CF:45.7億円 利益減少あるものの、運転資金改善+14.3億円により、前期比+9.1億円の増加。
- 投資CF:75.9億円 生産能力増強投資を継続。
- 財務CF:35.9億円 設備投資資金を確保。

(億円)

	2023.3月期	2024.3月期	増減額
営業活動によるCF	36.5	45.7	+9.1
税引前当期純利益	50.5	32.7	△17.8
減価償却費	27.9	28.9	+1.0
売上債権の増減額 (+は減少)	14.8	△13.1	△27.9
棚卸資産の増減額 (+は減少)	△36.7	14.2	+50.9
仕入債務の増減額 (+は増加)	△0.6	△9.3	△8.7
その他	△19.4	△7.7	+11.7
投資活動によるCF	△32.7	△75.9	△43.1
フリー・キャッシュフロー	3.8	△30.2	△34.0
財務活動によるCF	△4.0	35.9	+40.0
現金及び現金同等物に係る換算差額	0.0	△1.8	△1.8
現金及び現金同等物の増減	△0.1	3.9	+4.1
現金及び現金同等物の期末残高	32.5	36.4	+3.9

**運転資金改善
+14.3**

2024年3月期 貸借対照表

- 売上債権は、4Q販売急増により+13.1億円。
- 棚卸資産は、仕入れ抑制と需要回復により△14.2億円。
- 有形固定資産は、生産能力増強の設備投資継続により、+62.2億円。
- 借入金は、設備投資増加により+41.1億円。
- 株主資本は、純利益の増加により+20.7億円。

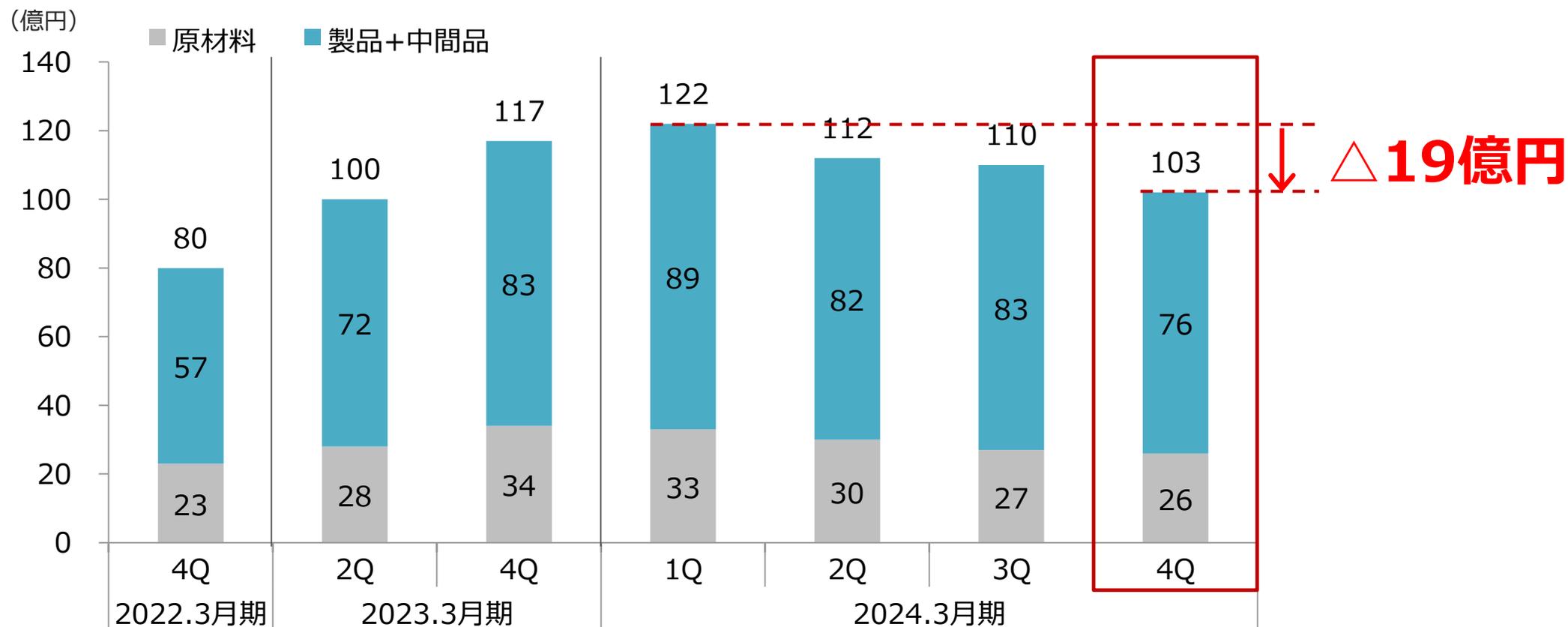
(億円)

	2023.3月末	2024.3月末	増減額		2023.3月末	2024.3月末	増減額
流動資産	216.8	226.8	+9.9	負債	314.6	376.9	+62.2
現金預金	32.5	36.4	+3.9	仕入債務	49.4	40.0	△ 9.3
売上債権	59.1	72.2	+13.1	借入金	178.9	220.0	+41.1
棚卸資産	117.5	103.3	△ 14.2	その他	86.2	116.7	+30.4
その他	7.6	14.7	+7.1				
固定資産	294.2	368.3	+74.1	純資産	196.4	218.2	+21.8
有形固定資産	276.3	338.6	+62.2	株主資本	195.5	216.3	+20.7
無形固定資産	6.0	15.7	+9.7	評価・換算差額等	0.8	1.9	+1.0
投資・その他	11.7	13.9	+2.2				
資産合計	511.0	595.1	+84.1	負債・純資産合計	511.0	595.1	+84.1

棚卸資産の状況

- 需要減少に合わせ、棚卸資産を削減。
- 棚卸資産は前期末比で14億円減少、ピークとなった2024.3月期1Qから19億円減少。

棚卸資産の推移



1. 2024年3月期 通期 決算概要

2. 2025年3月期 通期 業績予想

3. 今後の見通し

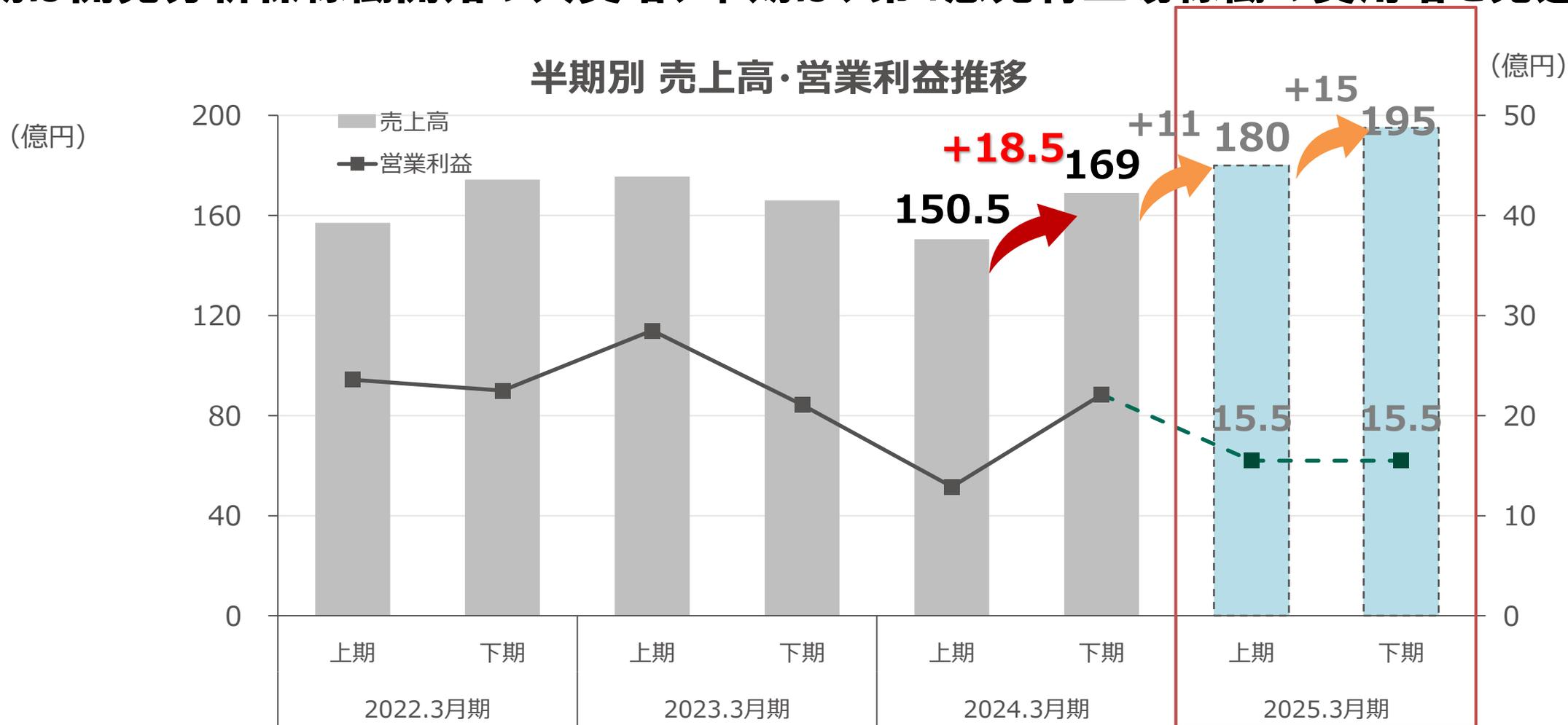
2025年3月期 業績予想

- 電子材料の需要拡大トレンドの中期的な継続を想定。
- 2025.3月期の電子材料市場は、需要回復見通し。売上高は過去最高の375億円、+55億円(+17%)の販売増を計画。
- 生産能力増強の大型設備の稼働開始に伴い、固定費の上昇を見込む。

(億円)	2024.3月期 実績	2025.3月期 業績予想	増減額	増減率
売上高	319.5	375.0	+55.4	+17%
営業利益	35.1	31.0	△4.1	△12%
経常利益	33.9	30.0	△3.9	△12%
当期純利益	23.9	21.5	△2.4	△10%
為替レート (USD)	¥144/\$	¥148/\$		

半期別 売上高・営業利益予測

- 半導体需要の回復に伴い、売上増は継続する見通し。
- 上期は開発分析棟稼働開始や人員増、下期は、第4感光材工場稼働の費用増を見込む。



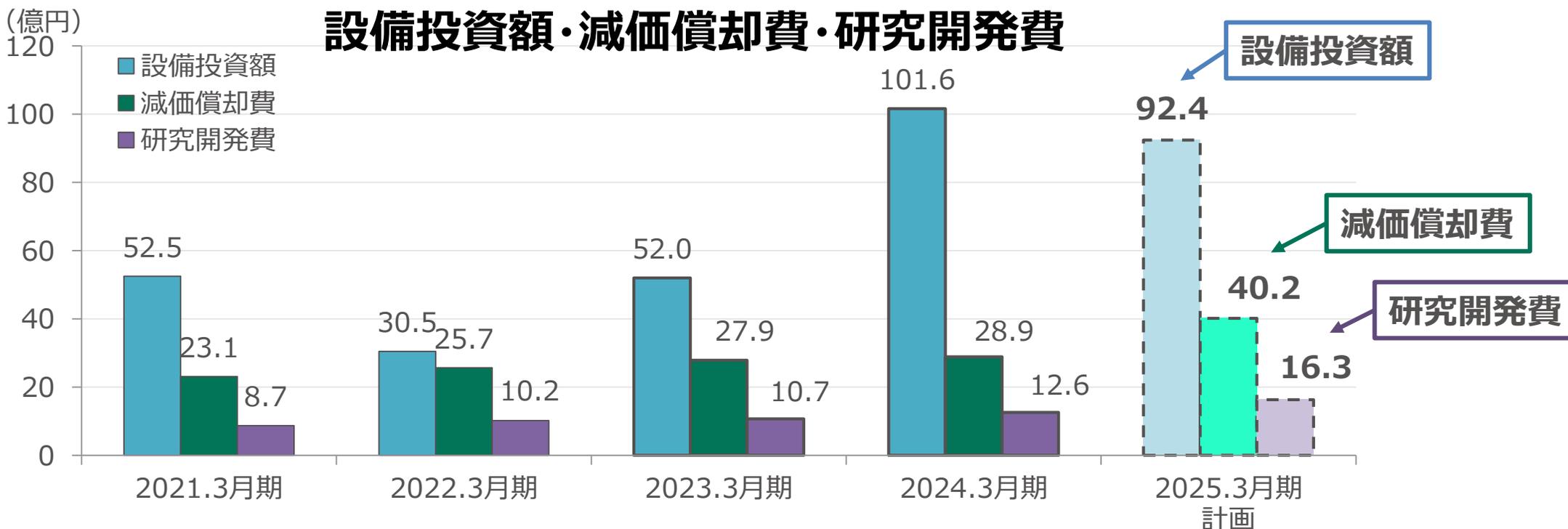
設備投資の進捗と予定

- 2025.3月期は、淡路工場第2屋内充填所、感光材開発分析棟、第4感光材工場の先端品生産ラインが稼働開始予定。



設備投資・減価償却・研究開発の計画

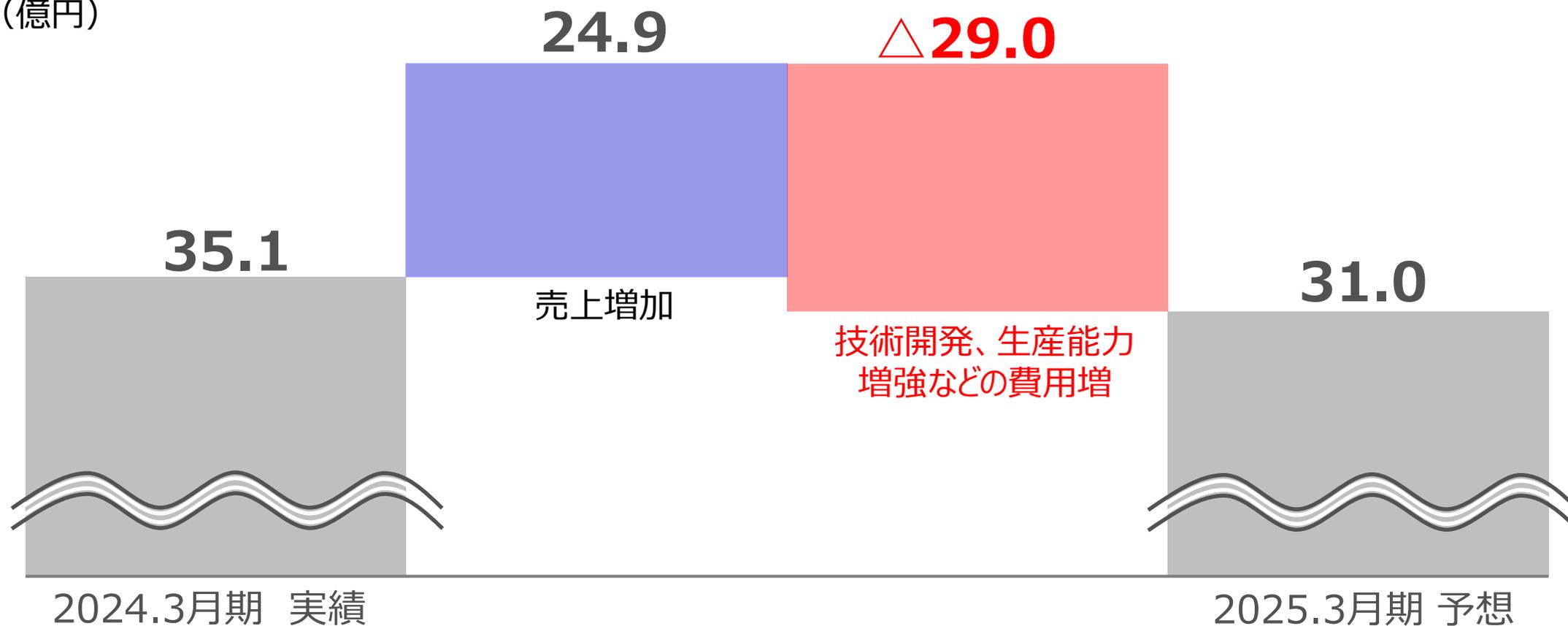
- 2024.3月期は、第4感光材工場の先端品能力増強工事、淡路工場第2屋内充填所(完成済)など、101億円の設備投資を実施。
- 2025.3月期は、感光材開発分析棟(5月完成)、第4感光材工場の能力増強(8月完成予定)などにより、92億円の設備投資(検収)を計画。大型設備完成により減価償却費は増加見込み。
- 研究開発では、製品開発に加え、生産性や品質向上に向けた製造技術力(分析/解析、工程開発)を強化
- 財政規律もリスク管理含め、しっかりと維持。



2025年3月期 営業利益 増減要因

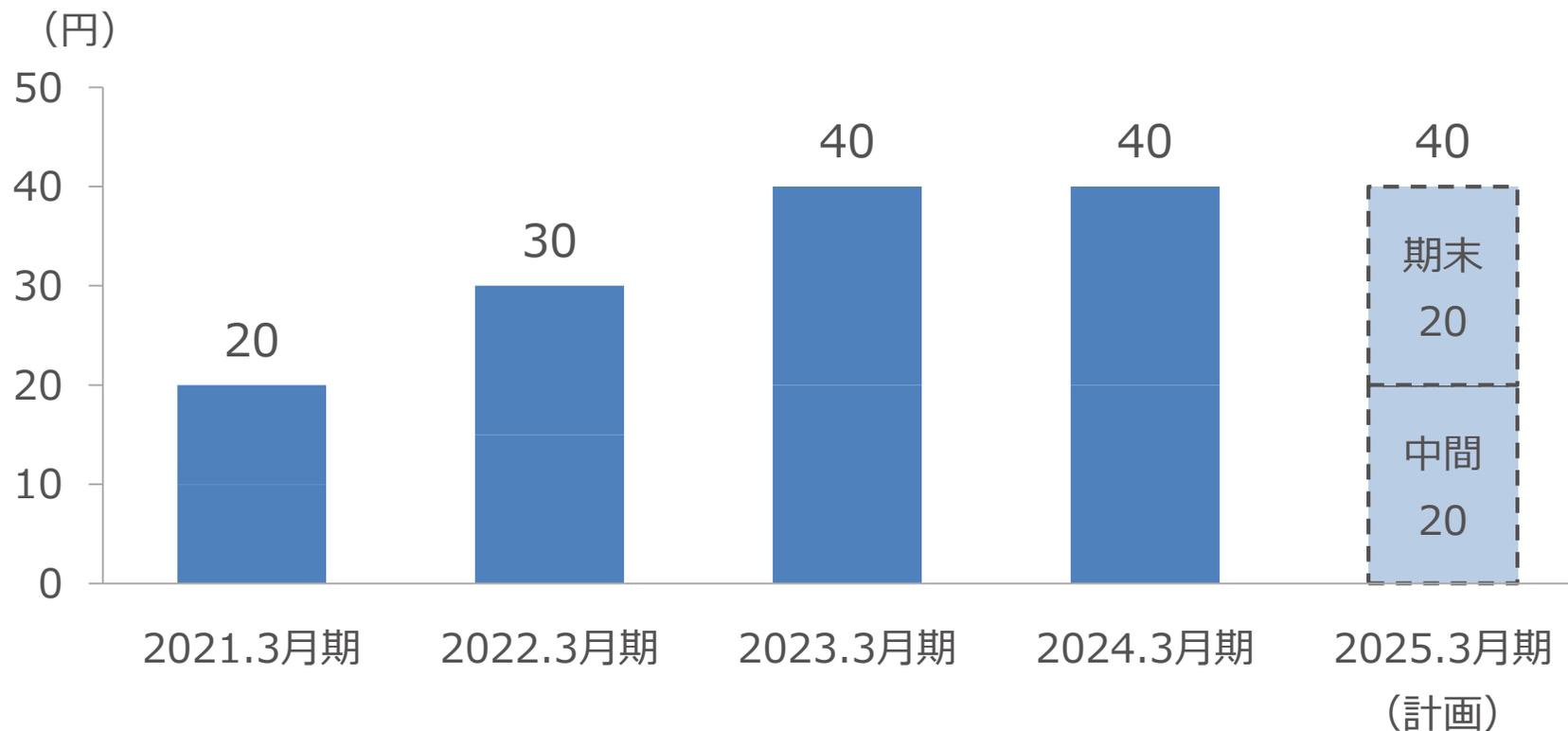
- **売上増・生産性改善による増益効果+25億円**を見込む一方、生産能力増強/技術開発(感光材開発分析棟・第4感光材工場)などの**費用増+29億円**を見込み、営業利益は31億円を計画。

(億円)



- 安定配当を基本とし、2025.3月期は、年間配当40円(中間20円)を継続。

1株当たり配当金額



1. 2024年3月期 通期 決算概要

2. 2025年3月期 通期 業績予想

3. 今後の見通し

中期経営計画「Beyond500」進捗

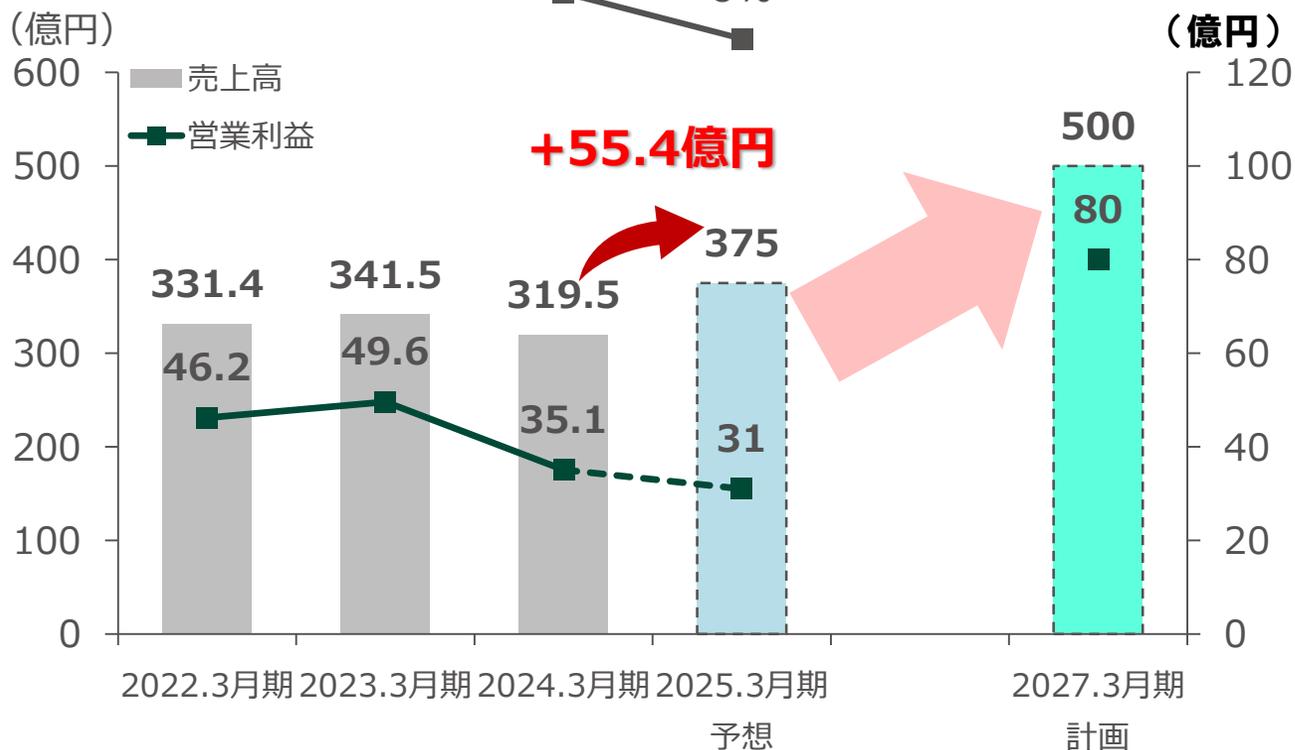
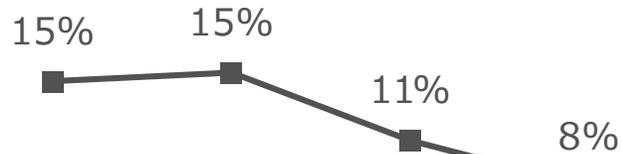
業績目標と進捗

Beyond500 (2027.3月期)

売上高:500億円

営業利益:80億円(営業利益率16%)

■ 営業利益率



Beyond500期間

- 2024.3月期は市場低迷、今後は、電子材料市場の中期的な成長を想定。
- 需要拡大に向けた、生産能力増強投資は計画通り今期稼働。
- 人材育成や技術戦略強化も進行中。

当社の電子材料向け製品ラインナップ

- 半導体全世代をカバー。半導体の微細化が進み、EUVが技術開発の中心に。引き続き全世代の感光材の品質を向上し、製品ラインナップの更なる拡充を図る。

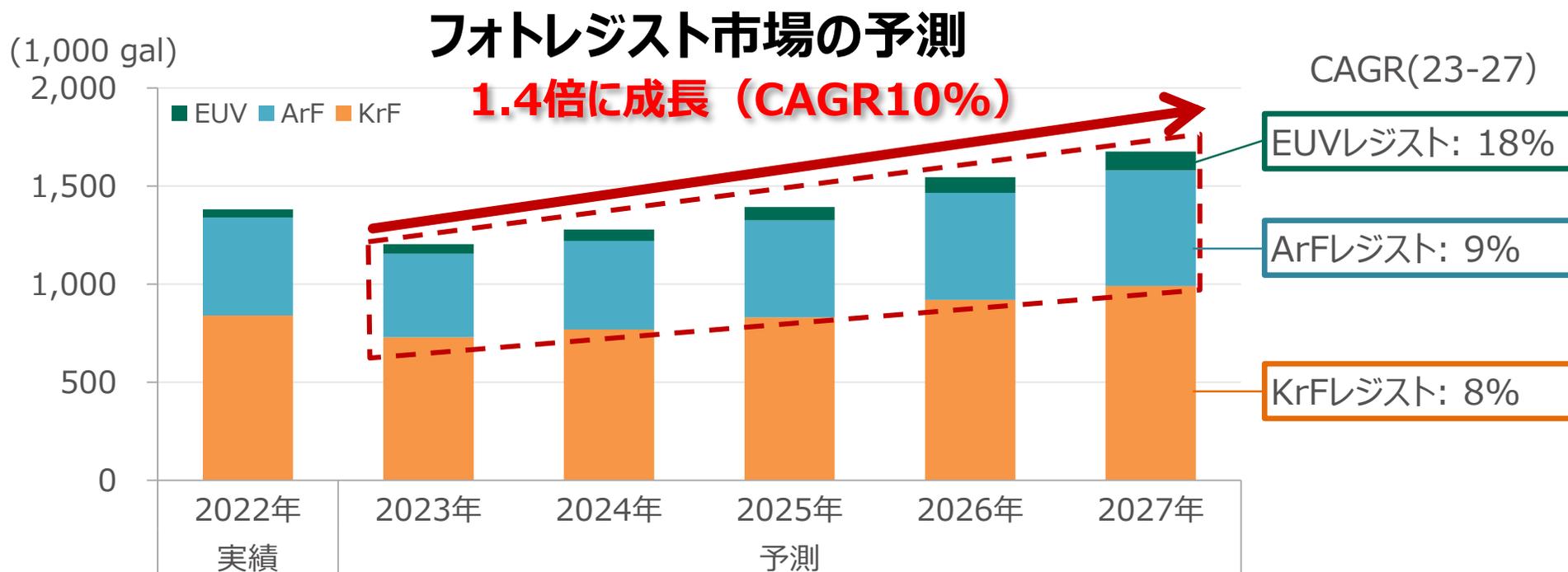
← 粗い

細かい →

	FPDパネル用		半導体用									
光源	g + h + i 線	i線 (365nm)	g線 (436nm)	i線 (365nm)	KrF (248nm)	ArF (193nm)	ArF液浸 (193nm)	ArF DP (193nm)	ArF MP	EUV (13.5nm)		
ノード	~2,000nm	~1,000nm	~700nm	~200nm	~110nm	~65nm	~45nm	~22nm	~7nm	~5nm	~2nm	~1.4nm
用途	テレビ用、 一般用	中小型 パネル スマホなど	IGBT、LCDドライバ、LED		DRAM/NANDメモリ 需要拡大			次世代DRAM テスト生産				
			後工程用パッケージ材料 CMOSセンサー		先端ロジックLSI 需要拡大		次世代ロジックLSI EUV生産拡大					
市場	需給ひっ迫	中国 パネル 需要拡大	緩やかに 拡大	緩やかに 拡大	緩やかに 拡大	横ばい	量産拡大 半導体設備投資 拡大	半導体設備 投資加速		開発中		
当社製品	感光材 (PAC) 高純度溶剤				光酸発生剤 (PAG) Polymer 高純度溶剤							

半導体向けフォトレジスト市場の見通し

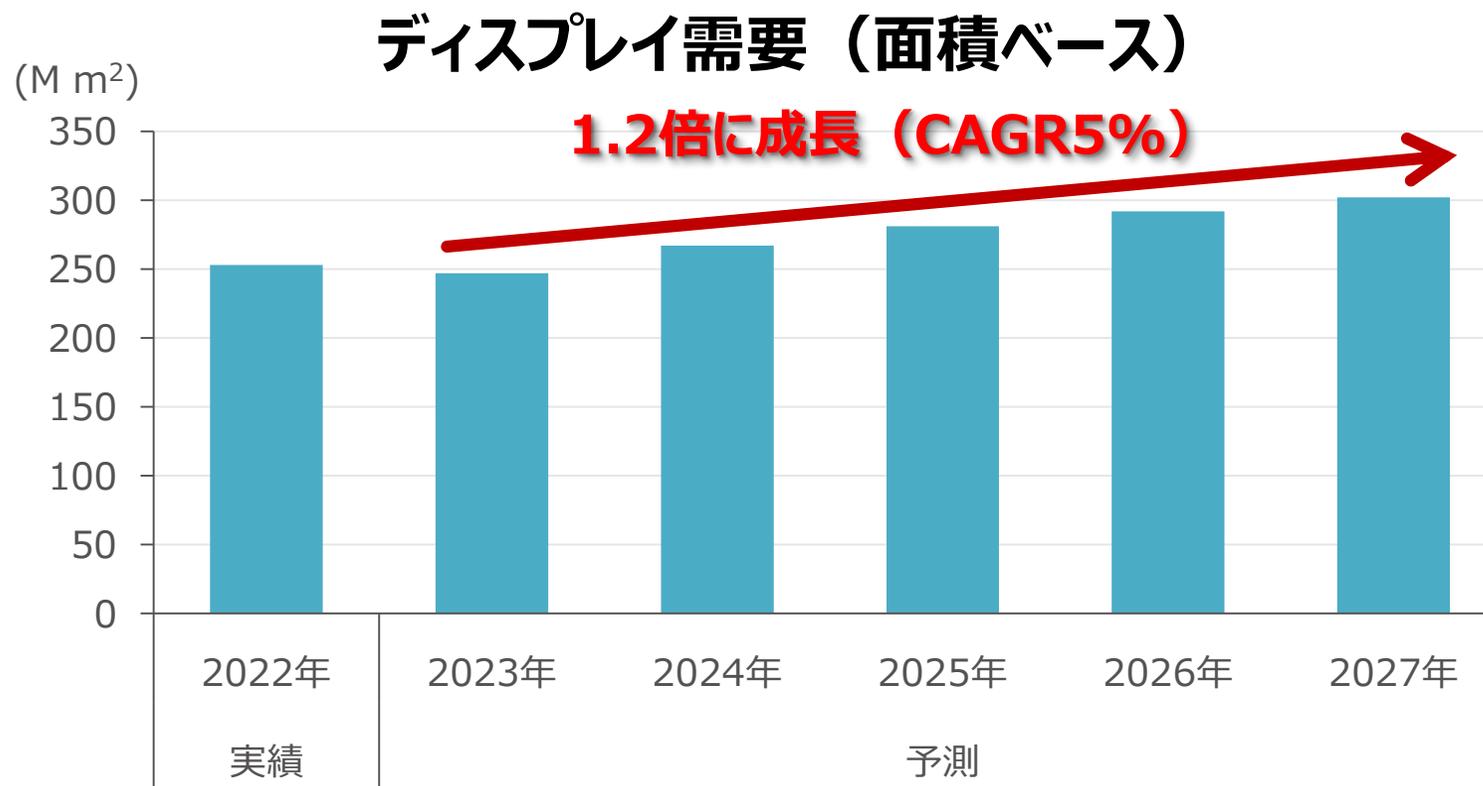
- 世界半導体市場は2024年10~15%成長、2025年以降も年10%成長を想定。
- EUV用レジストの需要量は、2023年-2027年、年18%で2倍に成長。
- 先端レジスト(EUV+ArF)の需要量も1.4倍に拡大見込み。
- 千葉工場 第4感光材工場 能力増強の完成により、当社キャパシティは1.8倍に拡大。



出所：富士キメラ総研「2024 先端/注目半導体関連市場の現状と将来展望から当社作成

ディスプレイ市場の見通し

- 2024年以降、緩やかな成長が続く見通し。
- **2023年～2027年にかけて、1.2倍に成長見込み。**
- TVの大型化や高精細品普及により、感光材/高純度溶剤の需要は拡大傾向。



出所：DSCC資料から当社作成

生産能力、製品開発力、製造技術力の強化



香料工場 管理分析棟完成(2023.8月)



淡路工場 第2屋内充填所 完成(2024.3月)



千葉工場 感光材開発分析棟 完成
2024.5月



千葉工場 第4感光材工場 先端品生産ライン
2024.8月 完成予定

- 2023.8月
香料工場 管理分析棟 完成(投資額:約3億円)
生産性向上、社員が働きやすい環境を整備
- 2024.3月
淡路工場 第2屋内充填所 完成(投資額:約10億円)
半導体向け溶剤、従来比約3倍の出荷能力増強
- 2024.5月
千葉工場 感光材開発分析棟 完成
(投資額:約30億円)
研究開発、品質管理を統合し、製造技術力・分析体制を大幅強化。
- 2024.8月
千葉工場 第4感光材工場 能力増強 完成予定
(投資額:約120億円)
先端品向け材料の生産能力を1.8倍※に拡大
※2022.3月期比



Beyond500 (現中計) における、大型生産能力増強設備は今夏には、稼働予定。

2024年5月15日 感光材開発分析棟完成

・分散化していた研究開発、プロセス開発、品質管理の部隊を一つの拠点に集約し、分析体制を大幅に強化。先端半導体フォトレジスト用感光材の研究開発や製造力を強化。

～外観コンセプト～

石(アース)、木目調(自然)、光る素材(結晶)を組み合わせ、先端半導体の技術や品質を進化させていく当社の研究開発の姿と、東庄町の豊かな緑や自然と調和しながら持続可能な社会を実現する姿を表現。



2024年5月15日 感光材開発分析棟完成

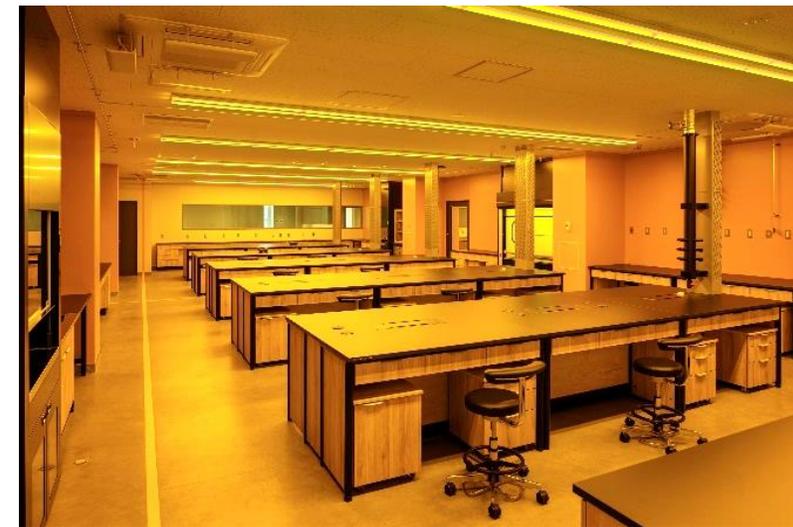
内部は、最先端の実験・分析設備を備え、部門の垣根を超えたコミュニケーションを促進するために全フロアにオープンコミュニケーションエリアを設け、新たな発見やアイデアを生み出す場として活用予定。



エントランス



ロビー



ラボエリア

オフィスエリア



オープンコミュニケーションエリア



サステナビリティに対する取り組み

■ CO₂削減目標を設定

Scope 1+2 **2030年度 32%削減**(2013年度比)

省エネ対応 **エネルギー使用を原単位 前年比1%削減**

進捗

電力量に注目(CO₂排出量の約40%)し、グリーン電力化の計画を立案。
2023年は、淡路工場でグリーン電力使用比率を30%から50%まで引き上げ。

■ 外部認証

EcoVadis(全世界)
サステナビリティ調査
シルバーメダル

「環境」「労働と人権」
「倫理」「持続可能な原料調達」が高評価。

日本政策
投資銀行
BCM格付



事業継続計画
ISO22301

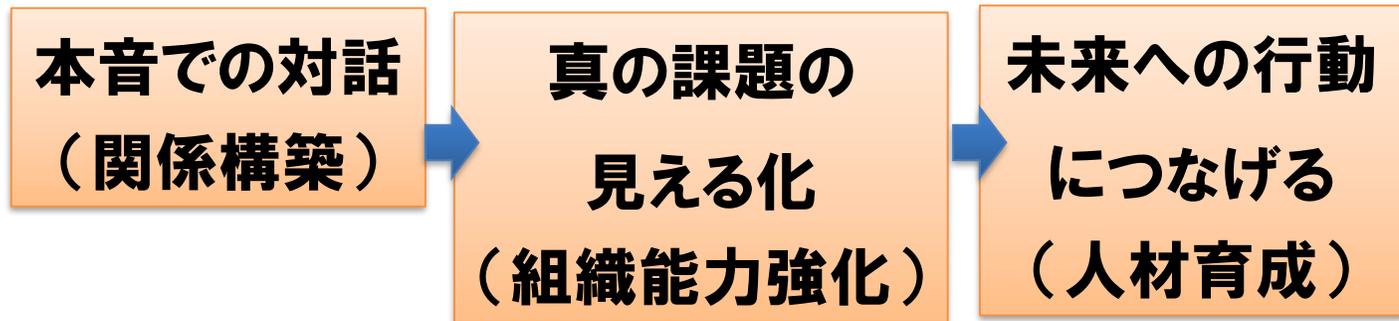
化学業では日本で2番目に取得。「事業継続に対する取り組みが特に優れている」と評価。

充実した仕事環境と人材育成への取り組み

中期計画：長期の持続的な事業拡大に向け、充実した仕事環境と人材育成への投資



- 2024年2月 「人権方針」を制定
- 「一人ひとりが実感できる安全」の実現に向け、全工場で安全文化醸成ワークショップを開催。トラブル減少に効果。さらに主体的な仕組み構築、よき職場環境の実現に向けて活動を継続。



- 開発部門、品質管理部門の一元化と知の創発を狙う職場環境設備が完成



充実した仕事環境と人材育成の取り組み

■ ダイバーシティ & インクルージョン

目標

- ✓ 女性管理職人数 2024年3月末 10名到達
- ✓ 女性活躍の推進（2026年3月末までの施策）
・女性が働きやすい職場環境整備に向け、女性を対象とした社内アンケートを実施し、多様なキャリア・働き方の支援を推進。
- ✓ **男性社員の育児休業取得率** 2026年3月末 40%以上
- ✓ 障がい者法定雇用率 2.5%の達成

進捗状況

2024年3月末 10名達成

2024年4月1日に新たに目標設定

2024年3月末 **57.7%を達成**

2024年3月末 2.7%を達成

■ 健康・安全

2023年を「健康施策実施元年」と定め、
社員の健康意識の底上げ、
健康増進への取り組みを開始。

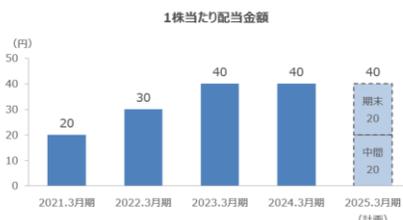
健康経営優良法人2024に認定



2024
健康経営優良法人
Health and productivity

関係者とのWin-Winを大切に

配当2倍/5年



株価4倍/5年



JPX-NIKKEI Mid Small
2023年JPX日経中小型株指数

構成銘柄
投資者にとって投資魅力の高い会社



事業継続計画 ISO22301

日本政策投資銀行
BCM格付
化学業で日本で2番目に取得。
「事業継続に対する取り組みが特に優れている」と評価。



ハラール認証

イスラム教の教えに則っているか、安全か、という点に重点を置き、ハラール認証機関が認定し、ハラール性を保証する制度。

技術解決力

EcoVadis (全世界) サステナビリティ調査
シルバーメダル

「環境」「労働と人権」「倫理」
「持続可能な原料調達」が高評価。

工場立地名産品の株主優待品

当社工場立地の地元名産品を購入し、株主優待として還元



ダイバーシティ

日経ウーマンオブザイヤー
2022 受賞 (内閣府)
感光材事業リーダー
ダイバーシティ担当役員
平澤聡美さん



働きやすさ、ワークライフバランス、収入

- オンライン就業環境 (本社、研究所)
- 平均年収694万、平均年齢36才
- 年間ボーナス6.0カ月
- 残業平均1時間/日、サビ残無
- ワークライフバランス、イキイキと働ける職場、やりがい、育成環境、若手裁量を重視
- 有給取得70%以上 (実績)
- 育休取得90%以上、復帰率100%
- 健康経営優良法人2024認証



奨学金 & 研究助成 (実績多数)

- 東庄町、千葉大、早大
- 東洋合成記念財団 (千葉大、日大、理大、全国)

千葉大学とのパートナーシップ

- 感光材黎明期から学術連携
- 授業での連携
 - ✓ 「データ科学の実社会での応用と実際」
 - ✓ ZOZOマリン実地研修 (6/25,26)
 - ✓ 企業説明会 (6/25,26)
- 千葉大学基金への寄付拡大

地元のスポーツ振興を支援



独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical



東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。